

### <プロフィール>

昭和55年生まれ。神戸出身。本姓は茂山、流儀は大蔵流狂言方。4歳で祖父、先代・善竹忠一郎に手ほどきを受け、以降、父・忠重に師事。初舞台(狂言「伊呂波」)は4歳の秋。平成17年、(社)大阪能楽養成会研究科卒業。立命館大学産業社会学部卒業。現在、同大学先端総合学術研究科に在籍、京阪神を拠点に全国各地で活動中。

加されて、大きな変化を「自分の中で感じられますか？」  
善竹 一昨年の「ハムレット」と「リア王」、昨年の「オセロ」と「フォルスタフ」(唯一の喜劇)に参加しましたが、西洋演劇の体の動き・柔軟性・瞬発力は狂言にはないものですし、台詞が長く抑揚が少ないことも狂言とは真逆なのですが、それが逆に狂言の伝統的な「型」を改めて意識的に見つめ直すことに繋がっている気がします。また、客席を意識するようにもなりました。3年目の今年はプロジェクトの最終段階で6月に「ロミオとジュリエット」、10月には「ロベス」が予定されています。

須澤 プロジェクト参加は善竹家としては問題ありませんでしたか？  
善竹 曾祖父の人間国宝・善竹彌五郎は戦後初めてホールで上演するなど、市井に門戸を開いた破天荒な人だったのですが、祖父の忠一郎は伝統的な端正で美しい芸風の人でしたし、父もどちらかと言えばクラシックなスタイルを好む人なので、プロジェクトへの参画には抵抗があるのかと思っていました。すんなり了承してくれて少々驚きました。伝統

須澤 昨年、「釣狐」をなさいました。これはどういう狂言ですか？  
善竹 昔は大蔵流にある180曲の狂言のうち、最終到達点とされているのですが、非常に体力を消耗するため、現在では若手の卒業論文的な意味合いを持つ演目です。ようやく昨年やることができました。実は、2月6日生まれなのですが、4歳の時の稽古始め、そして25年後の釣狐の稽古始めが奇しくも同じ2月6日なんです(笑)。

須澤 関根教授のプロジェクトに参



# 大蔵流狂言方 善竹忠亮

(ぜんちくただあき)



本誌Vol.25にご登場いただいた大蔵流狂言師・善竹忠亮さん。一昨年、昨年と早稲田大学国際教養学術院・関根勝教授企画の、日本の古典喜劇・狂言とシェイクスピアの4大悲劇をクロスオーバーさせるというプロジェクトに参加され、狂言では「釣狐」を見事に演じ、充実した芸能活動をされている。2年半ぶりにお話を伺った。

## 更なる飛躍に向けて

を重んじながらも、一方でこういうこともやってみたいと思っていたようです。

元々狂言は、難解な仏典をおもしろおかしく、分かりやすく解説したことから始まりました。能が体系化された折に、能を解説するものとして取り込まれたのですが、能が武士のたしなみとされて以降、狂言も精神性の高いものに変容していき、現在では解説の役割を担っていた狂言そのものが解説を要するものに……。私としては、狂言が本来もつと分かりやすく親しみのあるものだということをアピールしていきたいと思っています。その窓口のひとつとして、関根教授のプロジェクトへの参画は意義があると思います。

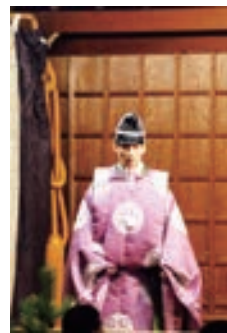
須澤 2月にはモリエールの「いやいやながら医者にされ」を原作とした日本式フランス喜劇「恋の良薬」に出演されるそうですね。

善竹 これはシェイクスピアの4大悲劇とは違い、原作自体が喜劇ですので狂言との相性もよく、楽しんでいただける演目だと思います。私は清助(スガナレル)役をやらせていただきますが、オペラのアリアと狂言のクロスオーバーを多くの方にご覧いただけたら嬉しいです。

須澤 2月にはモリエールの「いやいやながら医者にされ」を原作とした日本式フランス喜劇「恋の良薬」に出演されるそうですね。

善竹 これはシェイクスピアの4大悲劇とは違い、原作自体が喜劇ですので狂言との相性もよく、楽しんでいただける演目だと思います。私は清助(スガナレル)役をやらせていただきますが、オペラのアリアと狂言のクロスオーバーを多くの方にご覧いただけたら嬉しいです。

元々狂言は、難解な仏典をおもしろおかしく、分かりやすく解説したことから始まりました。能が体系化された折に、能を解説するものとして取り込まれたのですが、能が武士のたしなみとされて以降、狂言も精神性の高いものに変容していき、現在では解説の役割を担っていた狂言そのものが解説を要するものに……。私としては、狂言が本来もつと分かりやすく親しみのあるものだということをアピールしていきたいと思っています。その窓口のひとつとして、関根教授のプロジェクトへの参画は意義があると思います。



ハムレット(2008)



三番三(2001)



仁王(2008)

<http://www.zenchiku.com>

撮影：牛窓写真工房

### <プロフィール>

予備校講師歴20年。

関西～名古屋の大学受験予備校での指導経験豊富。現在、神戸元町にて「さくらみかふえ&ギャラリー」を経営。カフェにて不定期に『大人のための古文講座』を開催中。一方でろけつ染めの技法による美術作家としても活動。西洋占星術師としての顔も持つ。

「先生、どうして古文の授業なんか受けなきゃいけないの？僕、アメリカの大学に行くつもりだから受験でも必要ないのに」

インターナショナルスクールで教壇に立った初日、入学したての生徒から唐突にこんな質問（抗議？）を受けました。

それまで予備校で講義をしていた私には、そこまで面と向かって堂々と質問されることがちょっと新鮮でした。

もちろん予備校生だって心の中ではそう思っているのかもしれませんが、目の前に受験つものがあるから（笑）。だから、そんな彼の質問は私にとって改めて古文を学ぶ意義を考える良いきっかけとなったわけです。

日本に生まれ育った私達がほとんど無自覚に感じていることや独特の美意識などというのは、その原型が平安時代に完成されたと言われています。

自分でも気付かない日本人独特の心性を改めて認識する意味で、古文を学ぶっていうのはとってもいい入り口なのじゃないかしら？そして、それはかなり面白い作業なんじゃないかしらと。それが彼の質問への私なりの答えなのです。受験で必要ないなら、さらに純粹にかつ自由に楽しめる。

例えば、「言霊（信仰）」。「言葉は発せられた瞬間、神に向かって発せられたオネガイになってしまふ（＝言挙げ）」っていう発想ですね。

紀貫之の『古今集』仮名序』には「和歌は天地も動かし、鬼神の心もしみじみとさせ、男女の仲を和らげる」的なことが書かれています。「和歌ってイイですねー」を言外に含む。何故かいつも水野晴朗サンを思い出します、貫之の仮名序って「私は随分長い間、「天地を動かす」というのは誇張表現だと思っていたのですが、残された当時の文献から、貫之をはじめ、比較的官位の低かった歌人達の宮廷での独特な尊重のされ方が窺えるにつけ、「うむむ？」と首を傾げざるを得ないのです。

平安朝を代表するスキヤングラッな女流歌人・和泉式部が、そのスキヤングル故に潰されてしまわな



かった事情もそこにある！？」

言葉には不思議な力が宿っていて、それを自在に扱える歌人というのは、実にマジカルな存在であつたと考えるしかない。フツーじゃない力を持つ人は尊重される（排除される場合も多々ありますが）と。当時の人は多分、本気で言葉が天地〓国を動かすと考えていたんじゃないでしょうかね。

もちろん、現代では言葉そのものが国を動かすなどと誰も考えはしないけれど、結婚式で「分かれる・切れる・戻る」などの言葉はご法度、なんて発想自体、今でも「言葉そのものが及ぼす力」をどこかで信じているわけで。無意識に刷り込まれているものの根深さ、重さを感じませんか？

そんなわけで、このエッセイは、千年前の人達もそれほど現代人と変わらない、同じように恋愛もすれば、同じような場面で笑いもすれば泣きもするということを具体的エピソードと共に語っていきたいと思っています。次号以降もどうぞお付き合いくださいませ。

# La Redécouverte de la Littérature Classique

松本みのぶ | エッセイ 王朝文学の再発見

## 第1回 王朝文学、語っちゃいます♪





リア王 (2008)



ハムレット (2008)



大蔵流狂言方・善竹忠亮 清助(スガレ)



ソプラノ・中西麻貴 結姫(ワザナ)



大蔵流狂言方・善竹忠重 綱右衛門(シエロ)

## 日本式フランス喜劇

原作=モリエール「いやいやながら医者にされ」Le Médecin malgré Lui

# 恋の良薬

2010年2月13日(土)セルリアンタワー能楽堂

●午後5時開演

2010年2月28日(日)大阪能楽会館

●午後2時開演

演出=関根勝 脚本=森十八 作曲=石川潤一

出演=善竹忠亮(大蔵流狂言方)、中西麻貴(関西二期会・ソプラノ)ほか

裕福な商人の家に生まれた17世紀フランスの劇作家/俳優・モリエールは、貴族の子弟と並んで教育を受け、そのため上流社会の暮らしぶりに詳しく、後に華やかな外見に隠された彼らの傲慢や偽善をリアルに描くことができたと言われています。辛辣な筆致ゆえ権力者の不興を買い、上演禁止の措置を受けることもありました。そのような時には「爆笑編」を発表して観客を味方につけ、「問題作」の上演許可を取り付けました。本公演原作「いやいやながら医者にされ」は、その爆笑編のひとつ。「志芸の会」がモリエールの笑いを「日本式」に演じることを試みた本公演は、狂言とオペラのアリアの競演でお届けします。

料 金●一般前売4,500円(一般当日5,000円)/学生前売2,500円(学生当日3,000円)

お問い合わせ●志芸の会 電話/078-8891-6007 Fax/078-841-1651

<http://www.shigenokai.com>

●Theatre Project Si事務局 Fax/03-3584-2085

E-mail/mas\_sekine@nifty.com

ワンコイン座席指定:大阪公演のみ、プラス100円で座席指定ができます。(志芸の会Faxからのみ)

## Hands Out Duex Vol.1



### Stuff

発信者★須澤まりこ

ウェブデザイナー★日上和也

グラフィックデザイナー★AKEMI

編集・構成★須澤まりこ

校正★AIKO

制作・配信★有限会社 Mallion

無断転載禁止

■記事広告掲載のお問い合わせは  
有限会社 Mallion  
E-mail:mallion55@mallion.biz

まりこのおすすめ ちょっと気になるライブ

## SAMURAI

2010年2月25日(木)

●時間：午後7時30分～

●料金：¥2500(ドリンク別)

●会場：カフェ萬屋宗兵衛

神戸市中央区元町通 1-8-4-B1

http://www.soubei.net/

マイケル・松本 (Vo)、小林正見 (Bs)

坂下文野 (Pf)、木村優一郎 (Dr)

Hands Out Vol.42 に登場のマイケル・松本さんがボーカルをつとめる SAMURAI が、パッションートなひと時をお届けします。寒い今だからこそ、思い切りフィーバーしてください。



旧暦で言うと、2月の節分以降が新しい年なのだとか。節分には全国各地の社寺で、「鬼追い」とか「鬼打ち」などと呼ばれる儀式が執り行われているけれど、元々は朝廷の年中行事のひとつで、中国の風習が伝わって、大晦日の夜に悪鬼を追い払う大祓の儀式だったらしい。今では、そんなことはすっかり忘れ去られて、単純に「豆まき」の日で、その年の恵方に向かって、巻き寿司を丸かぶりする程度の認識しかないよね(笑)。

とも、ハンズアウトドゥーと名前を変えて再スタートした。去年はいろんな占いで、とにかく平成22年からだと言われていたけれど、そうは言っても待つてられない、何か動かないと！と思いつながら、全然動けなかった。それが今年に入ってから、自然と物事が流れ出したから不思議。根拠なんてないけれど、この2月から始動開始する人やこのマガジンが再スタートしたこと考えると、やっぱり節分以降が新しい年かもしれない？なあって思ったりする。どこへ向かっていくかは分からないけれど、何はともあれ、動き出した流れに身を任せよう。



流れにまかせて

### ★編集後記★

こうして編集後記をまた書ける時が来るなんて、嬉しい限りです！ボリュームを増やすべく頑張りますので、これからもよろしくお願ひ致します。

「ハンズアウトドゥー」で再出発。妹もスタッフとして参加することになりました。美人編集長の下、兄妹ともに、ますますパワフルに頑張ります！ (KAZUYA)

今回より編集のお手伝いで参加させていただくことになりました。未熟者なりに頑張ります！今年には花粉が少なく、重度患者の私も快適な春を迎えられそうです。(AKEMI)

立春を迎えても、まだまだ寒い日が続きます。本格的な春は先ですが、菜の花など春の味覚はすでにちらほら♪目の前の春が待ち遠しいです。ね☆ (AIKO)



## Hands Out Duex

1年間休刊していましたが、応援してくださる方々のお声を受けて、今月号から名前も新たに、配信を再開させていただきます。

少しずつ、充実を図っていきたいと思っていますので、これからも可愛がってくださいね！